

総合学習センター

飯山市公民館
市立飯山図書館
飯山市美術館
女性センター未来
飯山市ふるさと館

美術館発



『相原求一朗展 大地への慈しみ』好評開催中！
9月23日、美術館において企画展『相原求一朗展 大地への慈しみ』の開会式が行われました。式典では、石田市長をはじめ市の代表者のほか、企画展の開催にご協力いただいた関係者の舟橋川越市長や株式会社アオキホールディングス代表者、相原求一朗美術館（北海道）の館長で作家でもある高橋玄洋氏、そして奥様の相原麻木様からごあいさつをいただいたあとテープカットが行われました。

またこの後、開催記念コンサートが催され、声楽家川口京子さんとピアノ伴奏の長谷川美佐子さんによって『朧月夜』や『故郷』など14曲余りの演奏があり、企画展のスタートに花を添えていただきました。

相原求一朗展では、北海道の大自然を描いた油彩画や佐渡を描いたリトグラフなど、合わせて46点の代表作を展示しています。詩情あふれる相原求一朗の世界を、一人でも多くの方々にご覧いただきたいと思っております。

■期間等…11月5日（日）まで（月曜日休館）
■入館料…大人300円、市内小中学生無料（引率者も無料）

ふるさと館発

ふるさと館企画画展
「正受庵寺宝展」開催中
ふるさと館では、10月29日（日）まで「正受庵寺宝展」を開催しています。市有形文化財の白隠筆「初夢画賛」など、普段は見ることができない貴重な宝物を展示しています。この機会にぜひご覧ください。



図書館発

「センスofワンダー」
ご覧になりました？
10月14日、15日に開催した図書館まつりには大勢の皆さんに参加いただき、本当にありがとうございました。

図書館まつりのイベントや展示などに関連した資料を集めたテーマコーナー「センスofワンダー」はご覧になりましたか。ふしぎな科学の本、作って遊べる楽しい本が多数並べられています。まもなく終了となりますのでお早めにご利用ください。



女性センター未来発

女性センター未来は、女性の仕事と家庭の両立をサポートする施設として、職業や家庭生活の知識や技能の修得のためのさまざまな事業をおこなっており、資格取得の講座、趣味を広げ生活を豊かにする講座、健康づくりの講座などがあります。

また、女性を中心としたグループ活動の場として館を使用することもできます。市内に居住している方や市内に勤務している方のグループが、利用登録団体の申請をし許可されると無料で使用できます。自主活動の場としても多くにご利用ください。



公民館報 いいやま

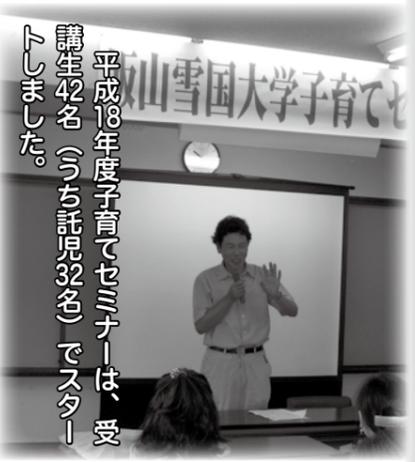
No.605

平成18年(2006)10月15日発行
発行・編集：飯山市公民館
〒389-2253
飯山市大字飯山1436-1
電話：0269-62-3342
FAX：0269-62-5940

飯山公民館 電話：62-3342 FAX：62-5940
秋津公民館 電話/FAX：62-2330
木島公民館 電話/FAX：62-0555
瑞穂公民館 電話/FAX：65-2501
柳原公民館 電話/FAX：62-5562
富倉公民館 電話：67-2136 FAX：67-2211
外様公民館 電話/FAX：62-1029
常盤公民館 電話/FAX：62-3200
太田公民館 電話/FAX：65-4579
岡山公民館 電話：69-2010 FAX：69-1800

飯山雪国大学 子育てセミナー開催

第1回講座 「童話と子どもの世界」
第2回講座 「家族のハッピーは、ママのイキイキから！」



平成18年度子育てセミナーは、受講生42名（うち託児32名）でスタートしました。

第1回講座は「童話と子どもの世界」と題して、臨床心理士・前白田小学校校長 東城久夫先生に、童話を通してお話をしていただきました。

1、孤独「羊飼いの少年」の物語から「オオカミだあ」とうそをつく少年の話
学校でも似たようなことがあります。例えば「校門前で知らない人に襲われた」と言う子、これは子どもの心ががさみしいからで、心の中を

2、いじめ「みにくいアヒルの子」の物語から
小2の子どものたちのザリガニの絵から、子どもの心を分析すると、お母さんと一緒に絵、友だちと一緒に絵、水槽の中にいる絵などいろいろあります。子どもの成長の速さは一一人人違います。絵を見ると子どもがわかれます。言葉はうそをつけるが、絵などの非言語はうそをつけないものです。絵から子どもの異質性がわかります。そして人間には「自分とは異質なものを排除しようとする面」があり、それがいじめとなっていくま

3、自立「桃太郎」の物語から
キジは勇気のシンボル、犬は誠実のシンボル、猿は知恵のシンボルを表して、これらは子どもが自立しながら勝ち取っていくかなければならぬものです。また、「一寸法師」は、子どもの旅立ちの物語で、異性と出会うやがて一人前へと成長していきます。他の物語にも様々なメッセージが隠されています。

4、仮面と人間「杜子春」の物語から
言葉を発してはならぬのに、つい「お母さん」と叫んでしまった杜子春。親は子どもに「いいこと、悪いこと、すべきこと」など伝えていかなくてはならないが、母親という仮面を脱いで、血の通った言葉を伝えてほしい。同じ

叱るにしても、親自身の心がこもっていけば必ず伝わります。人生の先輩として自信を持って、うれしい、悲しい、さびしい、くやししいという血の通った言葉を伝えてください。

受講生からは、一人一人子どもは違い、その時その時で十分愛情をもって接することが大事だということや、改めて認識できたこと。また、先生のお人柄と笑顔で話される姿がよく、心が和みましたと好評でした。

第2回講座は「家族のハッピーは、ママのイキイキから！」と題して、兼重コーチング事務所長 兼重尚子先生にお話をいただきました。

コーチングとは、相手が相談してきたとき、答えを出してあげるのではなく、どう聴いてサポートするかです。まず、相手の話を聴くと決め、相手の話に興味をもって、我慢して聴くことです。それを繰り返して、相手が自分で答えを出すのを待ちます。

講座はワークショップ形式で行われました。二人ずつ組んで自己紹介や今の自分のイキイキ度は何点か、また何があれば満点に近づるか、お互いに話し、聴きました。

自分が、イキイキするポイントが自分の中にある。自分が本当に好きなこと、夢中になれることをする。エッセンスとして、一番大事なところだけ取り出す。ちよつとしたワクワク、ドキドキ感が必要です。根っこにあるものを取り出して、一歩を踏み出すことです。

どうして私ばかりとか、子どもが小さいから今はいやだとか、マイナスに考えないで、それを実現するために何が出来るか、誰が協力してくれるか、肯定的に未来に向かって可能性を探すことです。

受講生からは、参加型の講座はドキドキしたけれど、自分の中の気持ちに気づきイキイキ度がアップした、いろいろな人と話すことができるとも楽しかったと好評でした。